

寄稿エッセイ

スプリングエフェメラル

北村 豊



日本語には同意語はないと思うが、この単語が私は好きである。

一般的には厳しい冬を乗り越えて、落葉した森林の日光がまだ十分に届く明るい林床で、春がとても待ち遠しかったかのように、さらには「春の短い命」や「春のはかなきもの」、さらには「春の妖精」とも訳されるが、それだけでは、皆さんの脳裡にイメージ物たちのことである。

代表的な植物として長野では近くの山林でもよく見られるイチリンソウやニリンソウ、フクジュソウ、ムラサキマンや、ギフトヨウ属の吸密植物とタクリなどがある。これらの植物のライフサイクルは、ふとイヤリギリス」のアリの習性を彷彿とさせる。

した後は地上部の葉や茎が枯れても根茎や球根などで翌春までの長い地中での生活を過ごす草花のことである。

これらは、我が家の冬は冷房、夏は暖房付きの住宅であることも春の動植物に出会った時の喜びを増幅してくれます。スプリングエフェメラルとは、そのような

る木々の葉が大きくならぬうちの夏までの短期間に、林床にまで差し込む太陽光を利用して、光合成を十分にした後は地上部の葉や茎が枯れても根茎や球根などで翌春までの長い地中での生活を過ごす草花のことである。

誰もが思い浮かべる蝶としては、ギフトヨウやヒメギフトヨウであり、ほとんどの人は白色に見えることからモンシロチョウと見間違える「ウスバシロチョウ」のこれら三種は全てがアゲハチョウ科に属するのだが、これらの種は蝶類の中で最も原始的で古代より生きながらえてきた歴史

一般的であるが、春にのみ成虫となる、年一化性の蝶のこともそのように呼ばれることがある。

私は、これらの「春の妖精」に大自然の中で直接に会える喜びを毎年、とても心待ちにしている。きっと長野県の冬は寒さが厳しく、それに耐えてやつてくる春だからなおさらなのだろう。さらに

をもつため、「生きた化石」とも呼ばれる。私は、これらの「春の妖精」に大自然の中で直接に会える喜びを毎年、とても心待ちにしている。きっと長野県の冬は寒さが厳しく、それに耐えてやつてくる春だからなおさらなのだろう。さらに

故郷の奈良で過ごした中学生時代に、ギフトヨウの研究で日本学生科学賞に個人部門で入選したこともあり、春の妖精は私を大自然の不思議な世界へといざない、人生をとても豊かなものにしてくれたきっかけになつたともいえる。

スプリングエフェメラルが、死んだ化石にならないことを願つて筆をおくこととする。（信州口腔外科インプラントセンター所長 上高井郡小布施町）